

サムコル®フロアブル10

■種類名：クロラントラニプロール水和剤
■有効成分：クロラントラニプロール ----- 10.0%
■化管法指定物質：クロラントラニプロール [第1種] ----- 10.0%

■登録番号：第22469号（エフェー・ケミカル登録）
■毒性：普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称）
■登録初年：2009.09.28
■性状：淡褐色水和性粘稠懸濁液体
■有効年限：4年
■包装：200ml×40本、500ml×20本
1ℓ×12本

サムコル®はFMC Corporation またはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です。

【特長】

- ジアミド系有効成分クロラントラニプロール含有の果樹・茶用の殺虫剤。
- チョウ目害虫に高い効果を発揮する。
- 速やかに害虫の摂食活動を停止させ、長い残効性を示す（約2週間効果が期待できる）。
- 適用作物に対する安全性が高い。

【適用内容】（2024年11月末日現在）

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量 (ℓ/10a)	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クロラントリアニプロール を含む農薬の 総使用回数
りんご	シンクイムシ類、ハマキムシ類 ケムシ類、キンモンホソガ ギンモンハモグリガ、ヒメボクトウ ヨモギエダシャク、オオタバコガ ヨトウムシ	2500～ 5000	200～ 700	収穫 前日 まで	3回以内	散布	3回以内
なし	ケムシ類、シンクイムシ類 ハマキムシ類、ヒメボクトウ						
かき	ハマキムシ類、ケムシ類 ヒロヘリアオイラガ カキノヘタムシガ、ハスモンヨトウ フタモンマダラメイガ	5000					
ぶどう	ハマキムシ類、ケムシ類 モンキクロノメイガ クビアカスカシバ、ハスモンヨトウ						
おうとう	コスカシバ、ハマキムシ類 ケムシ類	2500～ 5000		収穫 14日前 まで			
	オウトウショウジョウバエ	2500					
うめ	ケムシ類、ノコメトガリキリガ コスカシバ	2500～5000		収穫 3日前 まで			
	ハマキムシ類	2500					
すもも	シンクイムシ類	2500～ 5000		2回以内			
	ケムシ類、ハマキムシ類						
あんず		2500		収穫 前日 まで	2回以内		
ふさずぐり	スグリコスカシバ						
もも	シンクイムシ類、ハマキムシ類 モモハモグリガ、コスカシバ	5000	100～300	収穫 30日前 まで	3回以内	無人航空 機による 散布	4回以内 (粒剤は1回以内、 水和剤は3回以内)
ネクタリン							
さとうきび	メイチュウ類、ツマジロクサヨトウ	50	2.4				
茶	チャノコカクモンハマキ チャハマキ、ヨモギエダシャク	2000	200～ 400	摘採 3日前 まで	1回	散布	1回
	チャノホソガ、ハスモンヨトウ	2000～ 4000					



【効果・薬害等の注意】

- 使用前によく振ってから使用すること。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 散布液調製後はできるだけ速やかに散布すること。
- 使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節すること。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守ること。
 - ◆ 散布は散布機種の散布基準に従って実施すること。
 - ◆ 散布に当っては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
 - ◆ 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
- 過度の連用をさけ、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせ使用すること。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理すること。洗浄水は散布液調製に用いるなど、ほ場等で使用すること。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤飲などのないように注意すること。
- ❖ 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- ❖ 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- ❖ 散布の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して薬剤が皮膚に付着しないよう注意すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
 - 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
 - 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

